

陸産及び陸水産甲殻類

① 千葉県における陸産及び陸水産甲殻類（十脚目を除く）

十脚目を除く甲殻類のうち、陸生ないしは陸水生のグループには等脚目（ワラジムシ目）と端脚目（ヨコエビ目）が含まれ、また汽水域にタナイス目が、土壤中にソコミジンコ類が含まれる。陸水域には各種のプランクトン性甲殻類があるが、ここでは考慮していない。

全般的にわが国においては、従来から陸産甲殻類についての分類学的研究が遅れており、従ってそれを基盤とする生態的な研究も遅れていた。陸水産もそれに近い状況である。特に千葉県ではこれらの仲間について本格的に調査研究した例も無かったし、収集された標本もほとんど無い。また、従来のまとまった記録もない。したがって本県におけるこれらの分類群についての分類ならびに生態研究なども遅れており、掲載種の判断も数少ない材料から選定せざるをえなかった。

千葉県は高山こそ無いものの、海岸から低山までの環境があり、谷津と呼ばれる豊かな里山が広く見られる。また、今では少なくなっているが、

元来は岩礁や干潟が多く、砂浜などの自然海岸が多く見られたはずであり、ここには独特の種類が生息していたと考えられており、現在もいくつかの海岸でそれらの生息が知られている。また、千葉県は東京大都市圏の一部を構成し、都市化の進んだ部分が多い。これらの地域は、概ね乾燥しているためか、外国から侵入したと考えられる種がほとんどで、日本では個体数の少ないワラジムシやオカダンゴムシなどのオビワラジムシという種類が発見された例もある。歴史的ならびに地理的に横浜、東京など大規模な貿易港に近いであろう。

全般的に陸生等脚類では、トウヨウワラジムシ科、コシビロダンゴムシ科、フナムシ科などの在来要素が卓越している。

なお、端脚目（ヨコエビ目）や土壌性ケンミジンコには該当する種類がなく、河口域にはタナイス目が生息すると思われるが、研究されていない。

② 選定基準

X（消息不明・絶滅生物）

かつては生息が確認されていたのにもかかわらず、近年長期にわたって確実な生息情報が得られない種類。千葉県から絶滅したと考えられる種類。この類には過去の記録が整備されていないので、このカテゴリーに入るものは無い。

A（最重要保護生物）

分布ならびに生息環境が極めて限られている。しかも、生息環境が不安定で、少しの改変でも生息の絶滅が心配される種類。かつ千葉県以外の地球上のいずれからも生息情報もないか、または、個体数が極めて少ない種類。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響や要因を最大限、軽減もしくは排除すべきと考えられるもの。

B（重要保護生物）

個体数がかなり少ない。分布ならびに生息環境が極めて限られている。将来カテゴリーAへの移行の可能性が高いもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響や要因を軽減もしくは排除すべきと考えられるもの。

C（要保護生物）

個体数が少ない。生息環境が極めて限られている。県内の生息域は限られるが、県外でも分布域が少なく、生息密度も極めて少ないか減少傾向が見られる。

D（一般保護生物）

個体数が少ない、または少なくなっているもの。生息環境が限られており、生息地の多くで環境改変可能性がある。県内の生息域は限られるが、県外では一定の分布域と生息密度を持つ種類。

③ 保護を要する陸産及び陸水産甲殻類の概要

千葉県の陸産ならびに陸水産甲殻類（プランクトン性の種類ならびに十脚目を除く）の生息状況を見ると、保護を要する種類はすべて等脚目（ワラジムシ目）に属するもので、その性質上3つのカテゴリーからなる。

- 1) もっとも河口部の汽水域にすむ水生種。
ただし、砂泥底の内在性動物の確認は困難な場合も多い。

2) 自然海岸の飛沫帯にすむ陸生種。

3) 清澄山にすむ陸生の種類。

1) と2) は保護の手立てが難しい。そのままの状態でも生息環境が変わる可能性が大きく、現状維持以外に保護対策を打ち出すことは難しい。また、千葉県のこの類の分類が十分進んでいるとは言えないので、これから該当種が見出される可能性も高い。

④ 記述様式

等脚目だけであったので、亜目以下のタクサにはこだわらず、カテゴリー順に並べた。選定種における記述は、基本的に種の特性、分布、県内の状況、保護対策、引用文献の5項目とした。また、各種について分布図を作成した。分布図につ

いては、千葉県におけるこれまでの記録について、文献等のデータを収集することにより作成した。分布図は基本的に市町村単位で区分したが、清澄山は市町村界に位置するため、区別して記した。

⑤ 参考文献

Nunomura, N. (1981) *Eurydice akiyamai*, sp. nov., a new Isopod Crustacean from an estuary in Chiba Prefecture, Central Japan. Bull. Toyama Sci. Mus. 3: 7-11.

Nunomura, N. (1983) Studies on the Terrestrial Isopod Crustaceans in Japan I. Taxonomy of the Families Ligiidae, Trichoniscidae and Olibiridae. Bull. Toyama Sci. Mus. 5: 23-68.

Nunomura, N. (1984) Studies on the Terrestrial Isopod Crustaceans in Japan, II. Taxonomy of the Family Scyphacidae. Bull. Toyama Sci. Mus. 7: 1-43.

Nunomura, N. (1986) Studies on the Terrestrial Isopod Crustaceans in Japan. III. Taxonomy of the Families Scyphacidae (continued, Marinoniscidae, Halophilosciidae, Philosciidae and Oniscidae). Bull. Toyama Sci. Mus. 9: 1-72.

Nunomura, N. (1987) Studies on the Terrestrial Isopod Crustaceans

in Japan, IV. Taxonomy of the Trachelipidae and Porcellionidae. Bull. Toyama Sci. Mus. 11: 1-76.

Nunomura, N. (1998) On the genus *Gnorimosphaeroma* (Crustacea, Isopoda, Sphaeromatidae) in Japan with Descriptions of Six New Species. Bull. Toyama Sci. Mus. 21: 23-54.

Nunomura, N. (2004) Isopod Crustaceans in Chiba Prefecture, Central Japan. Bull. Toyama Sci. Mus. 27: 15-25.

Nunomura, N. and Nunokawa, M. (2009) Discovery of *Eurydice akiyamai* from Giki-gawa steam, Okinawa Island, Ryukyu Archipelago. Bull. Toyama Sci. Mus. 32: 89-93.

三浦知之 (2008) ヒガタスナホリムシ. 「干潟の生きもの図鑑」, pp.114. 南方新社, 鹿児島.

A ヒガタスナホリムシ スナホリムシ科

国：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

Eurydice akiyamai Nunomura, 1981

千：A-A-A

【種の特性】 体長4.4 mmまで。体は第6体節で最も幅が広い。腹尾節の後端に3対の湾入と3対の長い剛毛、1対の太い突起がある。第1触角は8節、第2触角は14節からなる。1975年、一宮川河口の干潟のコメツキガニ帯の近傍から発見され、1981年に新種記載された。模式産地からは生息が確認されていないが、沖縄県名護市での生息が確認されたほか、本邦の他の地域での生息が報告されているが、模式産地では絶滅が心配されている。

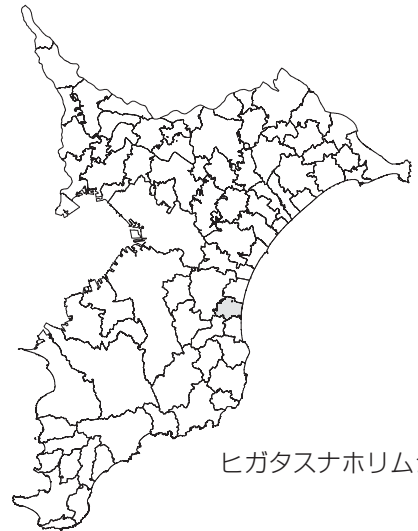
【分布】 一宮川河口(模式産地)。

【県内の状況】 模式産地以外からは標本等による確実な記録はない。

【保護対策】 河口域の改変を避けることが望ましい。

【引用文献】 Nunomura (1981)／Nunomura and Nunokawa (2009)／三浦(2008)

(布村 昇)



ヒガタスナホリムシ

A ヒメコツブムシ コツブムシ科

国：情報不足(DD)

Gnorimosphaeroma pulchellum Nunomura, 1998

千：A-A-A

【種の特性】 体長5.5 mmまで。尾肢外肢の長さが内肢の長さの半分以下。第2小顎基節外葉の両肢とも先端に歯を3本しか持たない。雄第1腹肢の内肢と生殖突起が分離しないのが特徴。木更津市の小櫃川河口の限られた水溜り部分(葦の繁茂する塩水沼)の泥底からのみ知られている。

【分布】 木更津市の小櫃川河口(模式産地)。

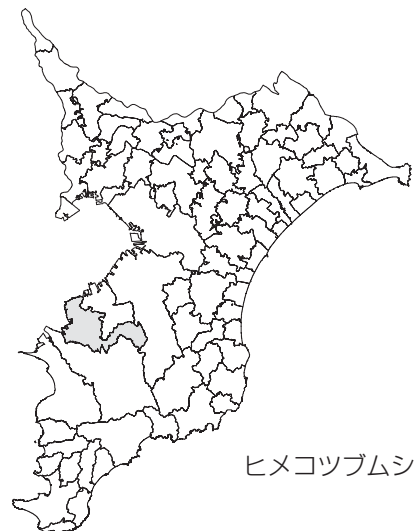
【県内の状況】 小櫃川河口の一部の水溜りに生息している。

【保護対策】 生息条件が微妙であり、本種の生態に関する調査を行なうことが望ましい。

【引用文献】 Nunomura (1998)

【写真】 P.184

(布村 昇)



ヒメコツブムシ

B キヨスミチビヒメフナムシ フナムシ科

国：掲載なし

Ligidium (Ligidium) kiyosumiense Nunomura, 1983

千：B-B-B

【種の特性】 白色。5.8 mmまでの小型種。目はやや小さく、30-40個眼からなる。第二触角の鞭は6節。本種は土壌の深い部分から発見されているが、調査が困難なため、情報が不充分である可能性も高い。本県の森林に普通に見られる同属(別亜属)のニホンヒメフナムシ *Ligidium (Nipponoligidium) japonicum* とは第1胸節の後縁の両側近くに剛毛束があることや雄の交尾器(第2腹肢内肢)先端が長いことなどで区別できる。

【分布】 清澄山(模式産地)からのみ知られている。

【県内の状況】 清澄山のみ。現在のところ、他県から知られていない。

【保護対策】 まだ人為のあまり入らない森林土壌の保全が望ましい。特に土壌の乾燥化を伴う、大きな開発をしないことが大切である。

【引用文献】 Nunomura (1983)

【写真】 P.184

(布村 昇)



キヨスミチビヒメフナムシ

B ニッポンヒロワラジムシ ヒメワラジムシ科

国：掲載なし
千：B-B-B

Littorophiloscia nipponensis Nunomura, 1986

【種の特性】体長4.7 mmまで。赤色の美麗な種類。第2触角の鞭節は3節からなる。岩礁または砂利の自然海岸で、適当な湿り気の有る飛沫帯にのみ生息する。潮の干満に応じて移動するものと考えられるが生態は明らかでない。

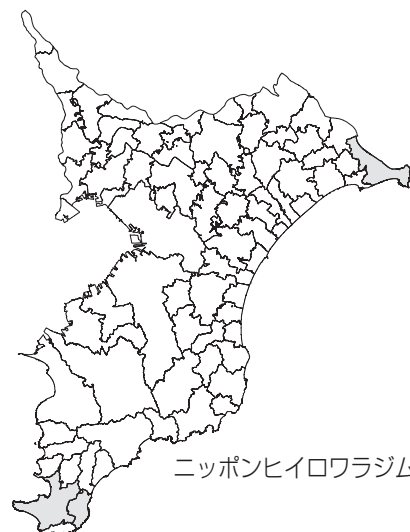
【分布】北海道から九州までの自然海岸の、生息に適したところ。

【県内の状況】自然海岸の極めて限られた地域に生息している。

【保護対策】自然海岸をそのまま残すことが望ましい。

【引用文献】Nunomura (1986) / Nunomura (2004)

(布村 昇)



ニッポンヒロワラジムシ

D ニホンハマワラジムシ ウミベワラジムシ科

国：掲載なし
千：D-D-D

Armadilloniscus japonicus Nunomura, 1984

【種の特性】5.5 mmまで。赤～紫色の美麗な種類。第2触角の鞭節は4節。砂利のたまった自然海岸転石海岸の適当な湿り気の有る飛沫帯にのみ生息する。

【分布】北海道から九州までの自然海岸の内、生息に適したところ。

【県内の状況】自然海岸の極めて限られた地域に生息している。

【保護対策】自然海岸をそのまま残すことが望ましい。

【引用文献】Nunomura, (1984) / Nunomura (2004)

【写真】P.184

(布村 昇)



ニホンハマワラジムシ